

## 会 議 録

- 1 会 議 名 令和5年度博物館協議会
- 2 議 題 (1) 令和4年度の事業実績について(新型コロナウイルス感染拡大防止対策を含む)  
(2) 令和4年度の博物館評価について  
(3) 令和5年度の事業計画について
- 3 開 催 日 時 令和5年8月22日(水) 13時30分～16時00分
- 4 開 催 場 所 北九州市立自然史・歴史博物館 ガイド館
- 5 出席者氏名 [協議会委員] 阿部会長、岩松副会長、井上委員、緒方委員、川津委員、染川委員、富田委員、三島委員、吉田委員(欠席:杉山委員、針尾委員)  
[事務局] 伊澤館長、月成副館長、久保田普及課長、日比野歴史課長、森自然史担当係長ほか

6 会 議 経 過 (発 言 内 容)

議題(1) 令和4年度の事業実績について

【事務局説明】

- 令和4年度の事業実績について、令和4年度博物館年報に沿って報告をおこなった。

【委員意見】

- 小倉駅のサテライト展示について、どのような状況で行ったのか。有料だったのか。
  - JR小倉駅から使用されなくなった喫煙ルームを利用できないかという打診があり、初めはグラフィックのみのPRを行っていたが、博物館らしいPRということで貝や骨格など展示環境に耐えうる標本を展示した。また、使用料は発生していない(事務局)。
- かなりインパクトがあり、素晴らしい活動だと思う。

議題(2) 令和4年度の博物館評価について

#### 【事務局説明】

- 博物館(事務局)の自己評価については、事前に各委員に送付しているので、説明を省略した。

#### 【外部評価小委員会説明】

- 外部評価小委員会案についても事前に送付し、各委員が検討し、意見を提出している。各委員の意見を中心に、外部評価小委員会委員長(協議会会長)より、説明がなされた。

#### 【委員意見】

- 展示を行うための調査研究活動は、評価の調査研究活動に含まれているのか。企画展を担当する学芸員の負担は大きいですが、展示作業と調査研究の関係性で課題やうまくいっている点などがあればご紹介いただきたい。
  - 歴史課の場合は、収蔵資料を中心に、かつその時々学芸員の研究や時期にかなっているものを選び計画を立てて行っている。長期間培ってきたものが企画展に反映されていたり、企画展に合わせて研究を進めたりしたものもある。資料収集活動と調査研究活動のどちらに結びつけて評価を行っていくのかは今後の課題である。研究報告の中でも、展示に繋がる研究成果の紹介も行っていきたい。自然史課では、「うなぎの旅展」の図録を作成し、年報の「2.書籍・普及書など」に記載した。学芸員の研究がベースとなり、研究と展示とをリンクさせながらできた成果として紹介したい(事務局)。
- 研究自体は個人の研究意欲によるところが大きいと思うが、特別展や企画展の担当は仕事を平均化するルールみたいなものがあるのか。
  - 特に文書化したルールは無いが、基本的に主担当と副担当がいて、各コーナーやテーマによって他の学芸員が主担当と相談して、企画などを行うという協力体制になっている(事務局)。
- 観る方が楽しくなるような展示の工夫がなされているように感じているが、展示の仕方や工夫はどのように相談し実施しているのか。
  - 歴史課では担当学芸員を中心に普及課職員も含め、ディスカッションしながら担当者がまとめていく形をとっている。「トイレのうんちく展」の会期前にトイレにうんちくパネルを置いたのもそのひとつである。自然史課では、特別展のテーマについては各担当学芸員が専門としている内容がコアになっている。来場者にどのように楽しんで興味を持ってもらえるかは、学芸員同士で相談しながら造っている。また、入口や造作などの見せ方についてはノウハウが蓄積されてきており、学芸員だけでなく普及課職員の意見も取り入れながら工夫している。特別展の入口はとても重要で、保護者が入場券を購入している間に子供が特別展に入りたいと思ってもらえるように、学芸員と普及課職員で知

患を絞り試行錯誤している（事務局）。

- 地域に密着したテーマを選んで展示をされていると思うが、どういうところに視点を置いて地域に関するテーマを見つけているのか。
  - 歴史系では地域の歴史文化に関わる資料収集が主になるので、そうしたものを集めたり研究していく中で必然的に地域に密着したものになっていくのだと思う（事務局）。
- 評価を A か B かという記号で選ぶという形ではなく、80%や 120%というような細かいところで考えていくと、これからの課題も見えてくると思う。記号で選ぶという評価の付け方以外の工夫を考えてみると良い。
  - 現在の博物館評価が始まって 3・4 年になるが、ある程度洗練されてきている部分もある一方で、合致していない部分もあるかもしれない。博物館法も改正されたので、評価項目を含め評価全体のあり方を見直していく必要があると思う（事務局）。
- 自然史と歴史を組み合わせることで新しいコンセプトが出てくるところが、いのちのたび博物館の魅力になっていると思う、また美術史を含め色々な博物館の側面が混ざっているところが良いと思う。さらに「うなぎの旅展」のように、現在農林水産業をされている方や新しい技術を産み出そうとしている方、経営をしていらっしゃる方などが関心を持てるような、産業技術ミュージアムなどが扱うような内容まで扱っているところがとても印象的である。あまり博物学になじみのない方々を取り込むのは難しいと思うが、ひとつの企業の営業活動にならないように学術的に表すのが上手だと思う。今後もこのような工夫を行っていくと、この博物館でしかできないコンセプトを生み出せるのではないかと思う。
  - 世の中の博物館に興味の有る方を見つけて、そういう方の好きなことなどとコラボした特別展などに今後も取り組んでいきたい（事務局）。
- SNS の発信は即時性が求められるが、投稿するシステムを教えて欲しい。
  - イベントなどに関する内容は広報担当の係長判断で投稿している。また、学芸に関することについては担当学芸員が執筆・確認を行っている（事務局）。
- いのちのたび博物館は東田地区の中核施設であり、リーダーシップを取ってもらっているが、地区内の回遊性がいつも問題になっていると思う。スペース LABO や環境ミュージアムと棲み分ける工夫について、中心になって議論して横の繋がりを進め、東田地区の魅力作りにさらに貢献して欲しい。
  - 博物館前の公園と博物館の敷地の一部を改修して、オープンスペースを造りイベントを開催できるような計画があり、アウトレットから博物館に歩いてくる意味がある場所づくりを考えようとしている。まだ

博物館や科学館に行こうというだけで、「東田に行こう」というエリアとしての魅力作りができていないことが課題だと思う。(事務局)。

- 東田ミュージアムパークについて、トイレのうんちく展を主催されているが、解説パンフレットに東田ミュージアムパークについての説明が書かれていない。宣伝も込めて、博物館との関係性など整理して記載すると良い。

### 議題 (3) 令和5年度の事業計画について

#### 【事務局説明】

- 令和5年度の事業計画について1 組織・運営体制、2 予算、3 展示会・イベント等(魅力アップリニューアル事業を含む)の説明をおこなった。

#### 【委員意見】

- 自治体 DX が進んで行く中で、いのちのたび博物館としてはどういう関わりをもっているのか。また、AI をどのように取り扱うのか議論が進んでいるが、職員の研修など共有できるものはどのようにされているのか。学び直し(リスキリング)ということが今すごく問われているが、博物館業界の中でも省力化させていく中で、今の流れの中での研修と博物館という環境の中での研修をどのようにされているのか。
  - 北九州市のDXは、まだ具体的に進んでいないのが現状だと思う。博物館では講座やイベントの申し込みを電子申請でできるようにしており、今年度は券売機をQRコード決済が可能なものに変える予定である。学芸部門の業務としては、DXやAIについて議論・検討が及んでいない。これから全国的な動向を見ながら勉強していかなければいけないと思っている。学芸員の研修については、文化庁や県内で行われている研修に積極的に参加してもらうようにしている。また、コロナ禍で中断していたが、市の博物館全体で学芸員の情報交換や研修を再開、充実させていこうと思う。DX化に関しては、どこまで使うかという線引が学芸員の中でも十分に議論が行われていないのが現状である。今後新しいことを始めるというより、仕事を減らすための方法で使えるものは使っていきたいと思う。一方で手仕事の伝統的な博物館業務との兼ね合いについては、これから議論しながら内容的に詰めていきたい(事務局)。
- 人員体制や省力化という波は、自治体の中で起きているので早く議論した方が良い。今言われたような手仕事と言ってもなかなか通じない部分があるので、先に提案することを念頭に置きながら進めていかないと、どうしてもやらざるをえない場所では人の取り合いになる。そういう中において、守ってきているいのちのたび博物館のすばらしい研究体制は絶

対維持してもらいたい。積極的にみんなと話をしていくことが必要だと思う。

- 自然史資料のデータベース化について、昨年度目標のおよそ 8 割が完了しているということだが、画像データ自体は博物館独自には公開はしないのか。
  - 現在博物館で資料の整理・登録に早稲田システムの IB ミュージアムを使用しており、このプラットフォーム上で公開することを進めている。ただ、公開するにあたって電子化されていないものが多いので、ある程度そろった段階で行うことを考えている。画像については撮影、サイジングの検討など、掲載するとなるとかなりの量になるので徐々にやっていくことになる（事務局）。
- 資料を 1 個 1 個検索すると、やはりビジュアルが出てきた方が良いと思うので、大変な部分だと思うが将来的には充実させていただきたい。
- リニューアル計画のヒストリーアートギャラリーのところで北九州から少し離れるという説明があったが、文脈として北九州から離れすぎるのは良いのだろうか。逆に北九州の文化がジャパンを観せていくという方が、良いものができるのではないだろうか。また、この博物館のヒストリー展示のようなものがあった方が良いのではないかと思う。
  - ヒストリーアートギャラリーについては収蔵品を展示し、その中に北九州市に属したものは多く、また日本の色々な文化の側面を示すような作品・資料を展示することを念頭に置いている。インバウンドで来館される方々は北九州市のコアな歴史を知りたいばかりではなく、日本の歴史や文化に触れたいと思われるので、当館のような規模の大きい博物館はそういう窓口になり、さらに北九州市の歴史文化に触れていただくような有機的な連携性を追求していきたい。博物館のアーカイブについても、「北九州市のあゆみ」の中で博物館開館のことにも触れ、展示だけでなく HP 等でも充実させていこうと思っている（事務局）。
- 現在ウェブサイト動画コンテンツをまとめて掲載しているが、今後このようなコンテンツは増やしていく方向なのか。あるいはコロナ禍での掲載情報をそのまま残していくのか。
  - YouTube 動画については、今のところコロナ禍で作成したものを引き続き公開していくことにしている。コロナや DX など今後の状況によっては活用していきたいと考えている（事務局）。
- YouTube などの動画を作成した時に、視聴者が観やすいように並べたり、検索しやすいようにするなど、またどのくらい動画を増やせば良いのかなどすごく悩むところがあるのだが、どうした方が良いのか意見を聞

きたい。

→ 当館のHP もリニューアルが進み、そのような動画を活用しやすい形でリンクをしていく、つまり、YouTube 自体は動画やその他コンテンツの置き場所であって、それを HP 上で活用していくということを考えている（事務局）。

#### その他意見

- トイレ展のトイレにうんちくを掲示するという広報の仕方が成功していると思う。子供は必ずトイレに行くし、親御さんも一緒に付いていくので。次の展覧会のお知らせや、今回の展覧会関連で常設展も観てもらおうような使い方をしていくと良い。
- 駅から博物館までの間に全く日陰が無かった。大きい木が何本かあったら日陰ができるので、博物館の仕事ではないけれど、この辺りの東田（ミュージアムパーク）の一貫として大きな木を植えるというのも一つの考え方だと思う。
- 博物館に来る間は意外と照り返しがきつい。この地区を歩くモチベーションの話があったが、今の状況では歩かない。このエリアだけではなく日本各地でもそうだが、木を整備していく時にお金がかかるから無理かもしれないが、木を切るよりは移植すると SDGs としても良いと思う。
- 博物館を撮影した時に、建物やランドスケープなど印象的なものであればより世界にもわかりやすい、そのような風景、ランドスケープが欲しい。植物を植えることはお金がかかるが、今は生きたものの方が価値が高まっているので、北九州市をイメージする新しい自然や歴史を使った風景を作って欲しい。

7 問い合わせ先 市民文化スポーツ局 自然史・歴史博物館

電話番号 093-681-1011